

鈴木 明彦¹: 海綿類が付着したヒゲマキナワボラの北海道百人浜への漂着Akihiko SUZUKI¹: Stranding of a keeled hairy shell *Trichotropis bicarinata* attached with sponge on Hyakuninhama beach of Erimo Town, Hokkaido, Japan

論文誌

ヒゲマキナワボラ *Trichotropis bicarinata* (Sowerby) は、カツラガイ科に属する中型の巻貝である。東北地方以北からオホーツク海、ベーリング海、北極海に分布し、水深10~100mの泥底に生息するとされている(肥後・後藤 1993; 長谷川 2000)。また、本種は北海道付近でも普通に見られる種類(波部・伊藤 1965)で、北海道の第四系からは化石記録も知られている(赤松 2003)。

日高地方沿岸でもヒゲマキナワボラは、しばしば打ち上げられる(鈴木 2004)が、生物侵食を受けた個体はあるものの付着生物が見られることはほとんどない。2006年10月に北海道の百人浜(図1)において、海綿類が付着したヒゲマキナワボラを採集したので、その打ち上げ例を報告する。

百人浜は、えりも町南東部に位置する。この付近にはおよそ10kmにわたり直線的な海岸線が連続し、典型的な外洋性の砂浜海岸である。2006年10月15日海綿類が付着したヒゲマキナワボラが、百人浜に漂着していた。漂着地点は砂浜の低潮線付近に相当し、多数の貝類・カニ類・ウニ類の遺骸が認められた。ヒゲマキナワボラは、これらの遺骸と共に浅海域から砂浜に打ち上げられたものと推定される。2006年10月中旬に、この地方を通過した強い低気圧の影響によって海岸に打ち上げられたものと考えられる。

漂着したヒゲマキナワボラ(図2)は、殻口が一部破損しているが、殻自体の保存状態は良い。殻長29.5mm、殻径24.2mm。殻は拳型をなし、肩と殻底に明瞭な稜をもつ。殻表は褐色の殻皮に覆われる。殻口内部は白色を示す。貝殻の螺塔部分に海綿類の付着が認められた。

貝殻に付着していた海綿類(図2)は、その特徴からザラカイメン科のジュズエダカリナ *Siphonochalina truncata* Lindgren に同定される(渡辺 1992)。円筒形で部分的に扁平な枝が1本の基幹から伸びている。枝の直径は8~18mm程度、高さは115mmに達する。骨格は網状の海綿繊維よりなり、乾燥標本では黄褐色を呈する。ジュズエダカリナは、水深5~20mくらいの岩礁に生息しており、乾燥した場合は風に舞うほどである(池田 1999)。相模湾、伊豆大島、館山湾などに分布している(渡辺 1992; 池田 1999)。今回の報告は北海道周辺では初めての漂着記録と思われる。

海綿類は主に岩礁などに固着しているが、海が荒れて基質から分離した後は、しばしば海岸に打ち上げられる(池田 1999; 中西 1999)。しかし、漂着した海綿類に関する記録は乏しく、北海道周辺においても一部が知られている(奥田・山田 1950; 伊藤 1987)のみで、今後の調査が望まれる。

今回、ヒゲマキナワボラと共に、エゾキンチャクガイ、オオミゾガイ、ユキノカサなどの寒流系貝類が多数採集されたので、これまでの報告と同様に普段は寒流の影響が強いことが伺われる(鈴木 2004)。一方、百人浜では、ココヤシ、ミフクラギなどの南方系果実も採集されており(石川 2006)、南方からの漂着物が流れ着くこともある。

謝 辞: 広島大学教育学部自然システム教育学講座の

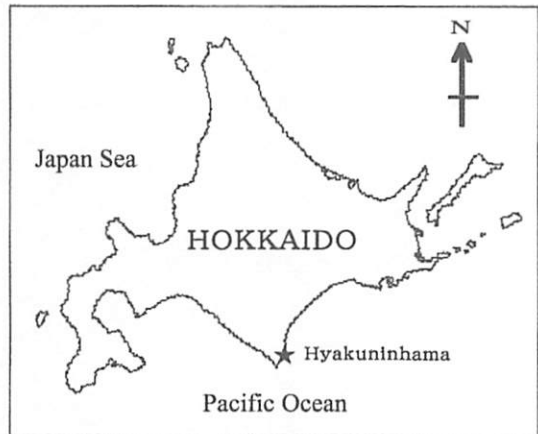


図1 北海道百人浜の位置



図2 海綿の付着したヒゲマキナワボラ。スケールは10cm

富川 光博士は、北海道の海綿類に関する文献をご教示下さった。また、第6回漂着物学会北海道大会の実行委員の皆様は漂着物採集にあたり、便宜を図って下さった。以上の方々に御礼申し上げる。

引用文献

- 赤松守雄. 2003. 北海道の自然史. 282pp., 北海道出版企画センター, 札幌.
- 波部忠重・伊藤 潔. 1975. 原色世界貝類図鑑 (北太平洋編). 195pp. 保育社, 大阪.
- 長谷川和範. 2000. カツラガイ科. 奥谷喬司 (編著). 日本近海産貝類図鑑, pp. 197-199. 東海大学出版会, 東京.
- 肥後俊一・後藤芳央. 1993. 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. 693pp., エル貝類出版局, 八尾.
- 池田 等. 1999. 三浦半島海岸の打ち上げ物 (2) 海洋生物編. 32pp., 葉山しおさい博物館.
- 石川慎也. 2006. 北海道百人浜へのミフクラギの漂着. *どんぶらこ*, (18): 3.
- 伊藤 潔. 1987. 無脊椎動物. 小樽市博物館 (編). 小樽海岸の自然 (海産) 調査報告書, pp. 19-115., 小樽市博物館, 小樽.
- 中西弘樹. 1999. 漂着物学入門-黒潮のメッセージを読む. 216pp., 平凡社, 東京.
- 奥田四郎・山田真弓. 1950. 北海道海産動物図説. 72pp. 新日本教育社, 札幌.
- 鈴木明彦. 2004. 北海道日高地方沿岸における打ち上げ貝類. 漂着物学会誌, 2: 13-18.
- 渡辺洋子. 1992. 海綿動物門. 西村三郎 (編著). 原色検索日本海岸動物図鑑 I, pp. 7-19. 保育社, 大阪.

(Received May 22, 2007; accepted June 11, 2007)

¹ 北海道教育大学岩見沢校地学研究室 〒068-8642 北海道岩見沢市緑が丘2-34

¹ Department of Earth Science, Iwamizawa College, Hokkaido University of Education, Iwamizawa 068-8642, Japan